

研究課題名 (研究期間)	底質浄化による生物生息環境の改善 (H23～H25)
-----------------	----------------------------

研究の概要

<p>研究ニーズ等課題化の背景</p> <p>大阪湾奥のような富栄養化が著しい沿岸域では健全な生態系が破壊され、生物再生産、水質浄化等の生態系サービス享受出来なくなっている。このことは、人々の足が沿岸域から遠のき、放置されることで環境悪化を加速する原因ともなる。</p> <p>これまで、垂直護岸に囲まれた尼崎港人工干潟において、アサリを利用して環境修復を試み、生残率向上、栄養塩類の取り込みによる水質浄化等一定の成果を挙げた。しかしながら、さらにアサリのような底生生物の生息場となる底質の浄化が必要となっている。</p> <p>これらの環境修復手法は他の富栄養化の程度が低い海域でも適用が可能と考えられ、また、生物多様性の回復を視野に入れた手法開発であることから、里海再生に繋がる調査研究である。</p>	<p>第3次県環境基本計画の該当項目</p> <p>生物多様性の保全 瀬戸内海を「適切に人の手が加えられ続けることによって高いレベルの生物多様性と生物生産性が維持された豊かで美しい海域」である「里海」として再生する取組の推進</p> <p>県関連施策名等</p> <p>水質汚濁対策：第7次水質総量削減(COD、窒素及び磷)計画策定、海域の物質循環健全化計画検討のモデル事業</p>
--	---



<p>目的</p> <p>環境が悪化した沿岸域生態系の正常化</p>

<p>内容</p> <p>尼崎港人工干潟においては、造成当時の清浄な底質が経年的に悪化し還元状態を示す黒色泥分が増加し、底生生物の生存に悪影響をもたらしているため以下の調査研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 底質悪化の実態把握調査 2 沿岸域生態系を正常化するために生物の生残、成長等を調査することによる種々の底質浄化手法の検証
